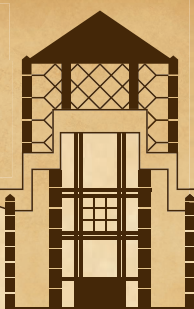


YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

横浜市歴史博物館



News No. 54
2023.4



浮世の華 掻かれた港崎

小宮山博史文庫● 仮名字形一覧

館長コラム vol.3

予告 特別展 生誕百年 中田喜直展



ジョー君

ARCHAEOLOGY

帰ってきた!

君も今日から考古学者!

—横浜発掘物語2023—



やよいちゃん

壮行会



横浜市歴史博物館の春の恒例だった子ども向けの考古学入門展示『君も今日から考古学者—横浜発掘物語2023—』が2019年以来、4年ぶりに横浜市歴史博物館に帰ってきました。そこで今回の展示について出演していただく皆さんから意気込みなどがたいと思います。あっ、今年から担当するYです。よろしくお願いします。



今回は、これまでどおり(横浜発掘物語2017~2019)、遺跡が土に埋まっていく様子を疑似的に観察できたり、自分たちの家が遺跡の近くに無いか調べたりするなど、いろいろな体験ができる展示ックル。



そのほかにも実際に土器のかげらをさわって観察することで考古学者の見方を追体験できる「土器のかげらをひろったよ!」も健在だね!



弥生人のスーとズッキがみんなの質問に聞いて答える「弥生人に質問だ!」、今年はどうな難問が出るか楽しみね。



弥生人的に何を言っているのか分からない質問もあるけど、久しぶりだから頑張って答えるぜ!



みんなの疑問にできるだけ答えるようがんばります。



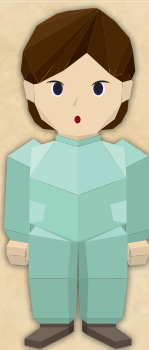
休んでいた4年間、ずっと大塚・歳勝土遺跡のことを調べていたのだけど、発掘調査から50年も経つんだよね。



学芸員Y



レックル



大塚君



そう、2023年、令和5年は大塚遺跡の本格調査から50年の節目の年です。大塚遺跡の調査のことや分かったことをわかりやすくみんなにお伝えできればと思います。



やあなつかしいですね、あの頃の大塚遺跡の青空を思い出します。



ズッキ



スー



かんちょう



(みんな) あなたはっ!



わたしがかんちょうです。4年の間にぜんかんちょうからかんちょうの座を引き継ぎました。わたしは50年前、大塚遺跡の調査に参加して測量をやったんですよ。展示、楽しみにしています。



展示以外でも大塚遺跡の本格調査50年に關した講演会や、遺跡の発掘に焦点を当てた映画の上映も計画しているックル。



それにしても僕たちまた変わった?



成長したのよ、きっと。興味のある人は博物館Newsのバックナンバー 43号と47号を観てね。



それじゃあ時間もきたので、今日はここまでにします。みんながんばっていきましょう!

(みんな)
おーっ!

キャラクターデザイン:
やなぎ堂

君も今日から考古学者!
—横浜発掘物語2023—
令和5年5月20日(土)
~6月25日(日)



浮世の華

MIYOKAZAKI
港崎



扱うものや、「源氏
君花街遊覧」(三代豊
国)のように遊廓を背
景に人物を大きく描く
もの、「横浜港崎廊岩亀
楼異人遊興之図」(芳員)な
どは異国人物とともに絢爛豪
華な遊廓の屋敷内で遊興に行じ
る様を描きました。

遊廓建設は幕府主導で進められ、都市
横浜が発展するための一要素として考えら
れ、江戸の新吉原にならない、外国人のあつか
いは長崎の丸山遊廓を範として建設が進めら
れ計画は難航しながらも万延元年十一月十日
完成し港崎遊廓といわれました。

遊廓と聞くとそこには、遊廓に対して抱き
がちな誤解や偏見が付きまといまいます。しかし
それはある意味では正しくも、港崎遊廓の場
合、横浜の都市建設のひとつとしてつくら
れ、外国人の横浜居留を引止め、土地繁栄の
一助となった側面もあります。また人を集め
交流を生み出す場という観点から外国人との
商談取引のハブとなったこともいわれます。
そして描かれた港崎遊廓は浮世絵という視覚
イメージを消費する江戸の一般大衆の好奇心
を満たす装置となったことも考えられます。
本展では浮世絵とともに歴史資料を通して
て、かつてあった歴史と記憶を多面的にみて
いただければと思います。(文 吉井大門)



①岩亀楼并二異客之図(部分) 歌川豊国(三代)、五雲亭貞秀 万延元年(1860)11月 大判錦絵3枚続 横浜開港資料館蔵
②港崎廊岩亀楼 配手拭袋 歌川国盛(二代) 万延年間(1860-61)頃 錦絵 横浜開港資料館蔵

令和5年3月18日(土)～5月7日(日)

前期:3月18日(土)～4月9日(日)

後期:4月11日(火)～5月7日(日)

会
期

小宮山博史文庫●仮名字形一覧

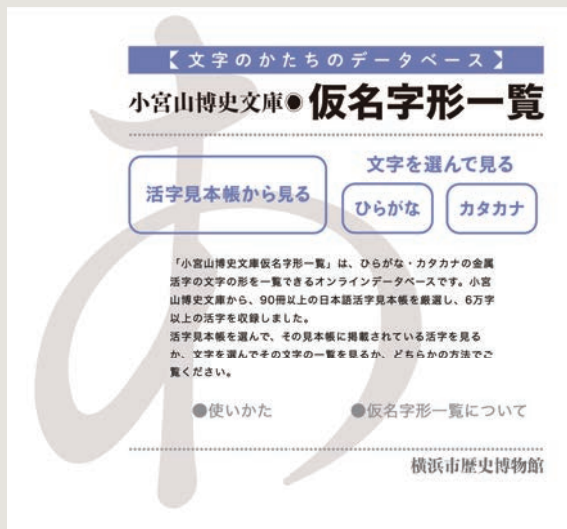


仮名字形一覧
QRコード

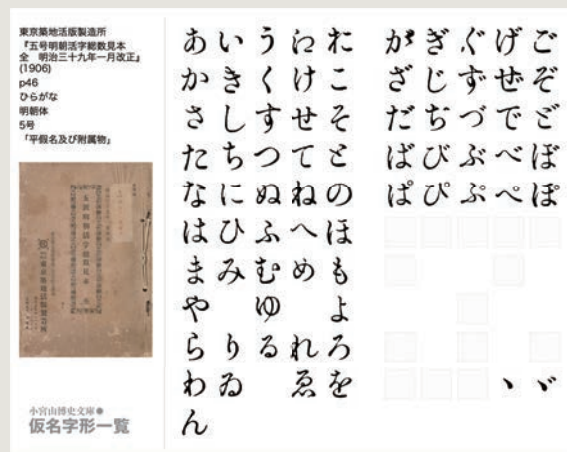
書体設計士で活字史研究家である小宮山博史氏
(以下、小宮山氏)は、自ら収集された資料を用い、
日本語文字の基本書体である明朝体の成立と日本へ
の伝播の経緯を明らかにされました。小宮山氏が収
集した資料は、令和元年六月、横浜市歴史博物館に
寄贈され、目録が同四年四月、横浜市歴史博物館
所蔵小宮山博史文庫(以下、文庫)として当館HP
で公開されました。また同文庫を活用し、令和四
年十二月十日から同五年二月二十六日まで、「活字
近代日本を支えた小さな巨人たち」展を開催しまし
た。

文庫は全点数二六四九点を数え、その内容は多岐
にわたりますが、なかでも特質すべき資料群が日本
語・中国語・欧米諸語の活字見本帳です。活字見本
帳は、活字鑄造会社や、印刷所に活字を販売する際
に配布した販売目録ですが、文庫には三一二点の活
字見本帳が収録されています。展示の開催および文
庫の活用について検討するなかで、同コレクション
最大の特徴である、活字見本帳をもとにした「小宮
山博史文庫 仮名字形一覧」(以下、仮名字形一覧)
を作成することになりました。

かつて小宮山氏は、平成十一年に『明朝体活字字
形一覧・一八二〇年～一九四六年』(全二巻、文化
庁文化部国語課編)を手掛けられましたが、これは



仮名字形一覧トップ画面



仮名字形一覧の一画面

冊子体の漢字字形一覧でした。一方今回作成した
字形一覧は、文庫所収の活字見本帳九十四冊に掲
載された仮名(平仮名・片仮名)を取り上げ、そ
の字形を一覧にするもので、冊子ではなく、デジ
タルのデータベースです。その作成にあたって
は、基礎作業として、活字見本帳のスクリーン、さ
らにスキャンしたデータの中から、平仮名・片仮

名部分を切り取り、さらに一文字ごとに切り分け
るといった、膨大な画像処理の作業が必要でした
が、二年以上の時間をかけて、今年一月末、当館
HPで公開することができました。文字のかた
ちのデータベースです。是非ご覧ください。仮名
活字の多様な書体の数々に驚かれることと思いま
す。(文 石崎康子)



作曲中の中田と細幅鍵盤ピアノ

「めだかのがっこう」「夏の思い出」「ちいさい秋みつけた」「雪のふるまを」。
実はこの四曲、すべて中田喜直（一九二三～二〇〇〇）が作曲した作品です。四曲すべてではなくても、いずれかの曲のどこかのフレーズを歌える、聴いたことがある、覚えていて、という方は多いのではないのでしょうか。ほかに、「かわいいかくれんぼ」「夕方のおかあさん」などの童謡、「美しい訣れの朝」「都会」などの合唱曲、「六つの子供の歌」「マチネ・ポエティクによる四つの歌曲」などの歌曲、「ピアノ・ソナタ」「組曲 時間」ほか、子どものピアノ曲など、中田は幅広い分野で数多くの作品を

特別展

生誕百年 中田喜直展

会期

令和5年7月15日（土）～10月1日（日）

生み出しました。加えて、新しい芸術的なことものを歌をつくる運動や、鍵盤の幅の狭いピアノの考案・普及にもつとめています。

プライベートでは、野球やスキーなどのスポーツに親しみ、特にスキーは一級資格を所持していました。また、社会問題への関心も高く、禁煙や嫌煙権を熱心に主張するといった一面もありました。

また中田は、昭和四十三年から亡くなるまでの約三十二年間、横浜で暮らしたことをはじめ、フェリス女学院大学で教鞭をとったり（同大名譽教授）、横浜市立学校の校歌を数多く作曲したりと、横浜にゆかりの深い人物でもあります。

今年の八月一日、中田喜直は生誕百年を迎えます。本展ではこの節目の年を記念し、中田の生涯をたどり、その音楽や意外な人物像、そして横浜とのかかわりを紹介いたします。また、中田音楽を楽しめる関連イベントも、会期中に開催予定です。

この夏、博物館で中田喜直とその世界に触れ、「夏の思い出」を作ってみませんか。（文 小林紀子）

○特別協力・写真提供

ナカダ音楽事務所
音楽出版ハピーエコー

アーカイブ配信のお知らせ

令和4年11月3日、博物館エントランスホールにて、中田喜直生誕100年プレコンサート「ちいさい秋みつけた」を開催しました。現在、アーカイブ配信中です。この機会にぜひご視聴ください。

- 配信期間：令和5年10月1日まで
- 配信料金：1,500円
- お申し込み：teket オンラインチケットから→
<https://teket.jp/4247/14523>



mini Exhibition
ミニ展示

吉田新田

〈会期〉令和4年10月23日（日）～12月27日（火）

昨年ご好評をいただいた「吉田新田」のミニ展示（News51・52合併号参照）。今年も再び開催しました。秋から冬にかけてのこの時期、横浜市内の多くの小学校では、4年生の社会科で「吉田新田の開発」を学習します。その時期にあわせての開催でしたが、小学生のみならず、大人のお客様もじっくりご覧になる方が多かった印象です。

今回、吉田勘兵衛のご子孫である吉田興産株式会社の厚意で、勘兵衛が掘ったと伝わる大井戸と清正公堂に、本展のお知らせを掲示いただきました。今後も協力して、吉田新田の歴史と魅力を伝えていきたいと思います。（文 小林紀子）



歴史×宇宙？

博物館にリュウグウサンプル（レプリカ）がやってきた！

〈会期〉令和4年7月26日（火）～8月31日（水）

令和4年、JAXA宇宙科学研究所はやぶさ2プロジェクトと相模原市が連携し、小惑星リュウグウのサンプルのレプリカを作成・配布する企画が実施されました。当館でも早速申し込み、夏休みにミニ展示を行いました。当館史上初となる、天文系の展示です（規模はさておき）。あわせて、江戸時代の彗星やオーロラの記録を絵画資料も交えて紹介し、歴史博物館らしさも出してみました（？）。写真奥の小さい方が実物大のリュウグウサンプル（手前は10倍サイズ）。小指の爪ほどのサイズながら、無限の可能性が詰まっていると思うとワクワクします。訪れたお客様にも、歴史と宇宙のコラボ展示をお喜びいただけていたら幸いです。（文 小林紀子）



かわる道具とくらし

〈会期〉令和5年1月13日（金）～3月31日（金）

小学校3年生用のミニ展示「かわる道具とくらし」を体験学習室にて1月13日から開催しました。今年度は、「すいはん」と「だんぼう」に関する資料として、「すいはん」では、羽釜、電気がま、五徳を、「だんぼう」では、火鉢、行火、櫓炬燵を展示しました。また、その使用方法の映像として博物館webサイトからも視聴できる「昔の道具とくらし」の映像をモニターで展示しました。昔の生活の中で人々の身近にあった道具たちはお化けの絵のモチーフとしても使われており、それらの絵画資料も展示しました。（文 小林光一郎）



羽釜のお化け（鳥山石燕「百鬼徒然袋」文化2年（1805）国会図書館蔵）

レキハクファーム通信 5

https://twitter.com/rekihaku_farm
横浜市歴史博物館レキハクファーム通信 (@rekihaku_farm)
で日々の活動の様子をつぶやいています！

三度撃沈。陸稲豊作への道のりは遠い・・・

民俗担当です(°o°) 前号に引き続き、レキハクファーム通信5号です。

畑で作れるお米「陸稲」を育てるプロジェクト。2回の種まきをおこない、6月末時点で48株が成長していたレキハクファームですが、今回のその後の様子をレポートしたいと思います。・・・がすでにタイトルに記した通り残念ながら今回は収穫ならず、となってしまいました。その反省も含めてお伝えいたします。

前号では7月前半までの様子をお伝えしたところですが、その後も7月の暑い時期には除草と水やりを定期的に行ってきました。今年の陸稲栽培のポイントは考古担当の希望もあって「肥料なしでどこまで育つか」を確認することでした。決して栽培に失敗した言い訳ではありません・・・

というのも、古代の人々も、土中の栄養分だけではなく、何らかの肥料を使っていたのではないかと確認したかったのです。あたりまえの事ですが、陸稲は土の中の栄養分を吸収して実が成長します。そこで、栄養となる肥料を与えなかったら＝土の力だけでどこまで育つか、ということを確認したかったのです。

かったのです。

こまめな除草や水やりの成果もあってか、結果は意外にも(?)穂がなるころまでは順調に育ちました[9月12日]。ところが、稲穂ができるものの、栄養不足のため実が入らず「実るほど頭を垂れる稲穂かな」ということにはなりません。

当然といえば当然の結果ではありますが、陸稲に限らず、大地の恵みを得るためには、何らかの栄養分を土地に与えることが重要だということを今さらながら思い知ったわけです。古代の人達がどのようにどんなものを肥料として与えていたのか、気になるころではありますが、そこは考古担当の研究に期待です。

さて、今年度は「No肥料」でどこまでできるか、というチャレンジを進めてきたレキハクファームですが、来年度は陸稲の豊作に向けて、シェア畑で利用できる有機肥料をフルスペックで利用し土から作り直します。今年度と真逆の方向性で稲作を進めてみることでどんな結果が生まれるのか、引き続きチャレンジを進めていきます。(文 羽田智幸)



DIARY

植えたもの 陸稲

7月18日 除草・水やり
考古担当とひさしぶりに作業。

7月25日 除草・水やり
暑さで雑草の育ちもにぶい?

7月31日 除草・水やり

8月3日 除草・水やり
成長の悪い株が枯れ始める・・・

8月8日 朝の立ち寄り
作業はせず、成長状況のみを確認

8月11日 除草・水やり
土の乾燥で倒れかけている株の修復



8月15日 朝の立ち寄り
作業はせず、成長状況のみを確認

8月20日 除草・水やり

8月29日 除草・水やり

9月5日 朝の立ち寄り
成長の早い穂がふくらみ始める

9月12日 夕方の立ち寄り
2〜3株に出穂した稲穂を確認

9月21日 除草
成長の良い株の稲穂がたれ始める

10月11日 刈り取り
実の入らなかった株の刈り取り

11月7日 刈り取り
実の入った1株の刈り取り

11月28日 刈り取り
実の入った2株の刈り取り

12月9日 寒起こし
Lovelyファーム側の1/3の土を30センチほど掘り起こす

2月23日 寒起こし
作業2回目。ひたすら力仕事。



大塚・歳勝土遺跡公園だより

「よこはま縁むすび講中」と「かやぶき屋根プロジェクト」3

令和4年度、「よこはま縁むすび講中」の一環として実施した「かやぶき屋根プロジェクト」の活動も無事終了しました。

前号で書いたとおり、大塚・歳勝土遺跡公園を離れて磯子区の三殿台遺跡での出張差し茅や関東大震災で崩れた茅葺屋根の住宅を修繕にあたって記された膨大な記録についての講義といった今までとは一味違う活動ができました。

また、これまでどおりの朝霧高原での茅刈りや、職人さん

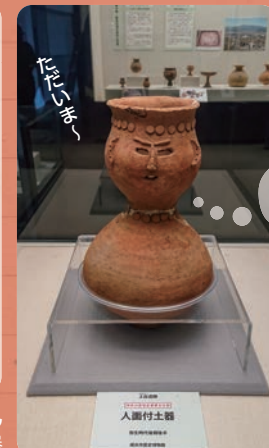
による熱血指導をいただくことができました。少しずつですがボランティアの皆さんの腕が上がっていることを実感できた1年間だったと思います。

令和5年度も「よこはま縁むすび講中」とともに「かやぶき屋根プロジェクト」は活動を続けます。ご興味ある方いらっしゃいましたら当館まで是非ご連絡下さい。(文 橋口豊)

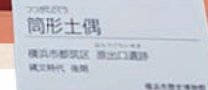


はらでぐちくん
原出口遺跡出土
筒形土偶

大阪府立弥生文化博物館に行っていた『かみだいさん』が帰ってきました。すっかり向こうの粉もの文化にハマったみたいです。『かみだいさん』が戻るや今度はボク『はらでぐちくん』が出張してきました。神奈川県立歴史博物館と相模原市立博物館で開催された令和4年度かながわの遺跡展「縄文人の環境適応」でレッドカーペットに載せてもらいました！うれしかったよ！5月からは2人とも『君も今日から考古学者！一横浜発掘物語2023—』に出演予定です。お楽しみに！



かみだいさん
上台遺跡出土人面付土器



経過報告

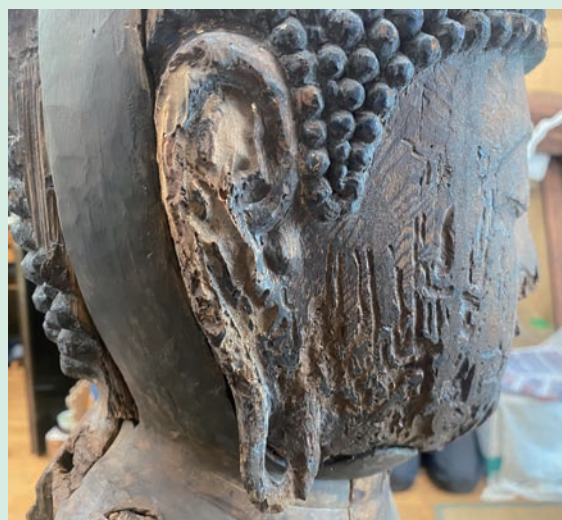
向導寺（泉区・岡津町）

阿弥陀如来坐像修理

令和四年の春からはじまった修理事業は、いよいよ大詰めを迎えています。前号（博物館ニュース五十三号）では修理方針を話し合っている様子を紹介しました。その後、秋と冬二回の検討会を経て、二月末の時点では一部の仕上げを残すのみとなりました。写真は秋の検討会の際の横顔です。修理前にはこちら側は、表面が厚い漆箔（しつぱく）で覆われていました。本像は平安時代後期、十一世紀頃の作ですが、近世には大補修を受けていたと思われる、顔の大半を覆っていた漆箔はこの近世修理時のものとみられます。この度の修理で取り除かれ、本像が造られた当初の整った丸顔と仰月型の眼がよりよく見えるようになります。

また、バラバラに離れて保存されていた各部材は、接合位置を慎重に見極めて組みなおされました。無事に修理が完了しましたら、経過をまとめてご報告します。平安後期の仏像の優美な姿を楽しみにお待ちください。

（文 花澤明優美）



速報！

港北区小机城跡の発掘調査

横浜市教育委員会は、中世の城跡・小机城（港北区）について、貴重な歴史の足跡をより良く保護し継承するために、令和三年度・四年度に発掘調査（試掘）を実施しました。

令和三年度の調査区は、二の丸広場南側（東曲輪調査区）と本丸広場北側斜面（北空堀調査区）の二地点で、それぞれ掘立柱建物跡と空堀の斜面の一部を確認しました。令和四年度の調査区は、本丸広場（西曲輪）の①北調査区・②西調査区・③南調査区・④東調査区の四地点で、①からは昨年度調査の空堀斜面の一端に相当する箇所を、②からは昭和三十九年の学習院大学輔仁会の発掘の痕跡を、③からは隅丸方形の遺構と土抗等を、④からは曲輪の造成の痕跡を、それぞれ確認しました。特に④については江戸時代の絵図には確認できず、新たな発見となりました。またかわらけや輸入陶磁器など、城として使われていた時期の遺物も数多く見つかりました。

小机城は「小机城址市民の森」として保護されており、往時の姿を色濃く残す城跡として有名ですが、試掘調査を重ねることでさらに城の新しい一面を確認することが出ています。横浜市歴史博物館では、今後も調査の成果を展示や広報物でお伝えしていきます。

（文 阿諏訪青美）



R4 西曲輪東調査区の調査の様子



港北ニュータウンは、グリーンマトリックスによる緑道の整備に代表されるように、歩行者専用道路、歩道が広大なニュータウン内をくまなくネットワークするように計画されています。センター南駅と北駅を中心にショッピングセンターや公共施設が設けられたタウンセンター地区も、南と北を結ぶ「みなぎたウォーク」といった歩道が整備されています。

横浜市歴史博物館正面の道路を歩い

地域連携事業

博物館のデザインと「みなぎたマルシェ」

てみると、左右の歩道が車道に比べて幅広いことに気が付きます。歩行者優先のこの道路は「シンボルロード」と名付けられ、北側はセンター北駅近くの噴水広場、南側は歴史博物館を結んでいます。

博物館の建物はシンボルロードから見て、大きな三角屋根とギリシャ建築のような円柱、三層吹き抜けのステンドグラスが目立つように設計されています。また博物館の正面左右は歩道と一体となるような庇状の屋根のある「コロネード」という細長い空間が設けられています。シンボルロードから博物館に向かって左に進むと博物館の建物に沿って遺跡公園への歩道橋に、右に向かうと市営地下鉄の高架をくぐって「みなぎたウォーク」に繋がります。三角屋根、円柱とステンドグラス、コロネードという博物館を特徴づける外観は、「シンボルロード」と「歩道」を意識してデザインされています。

令和四年五月、この歴史博物館前のシンボルロードを活用して「みなぎたマルシェ」が始まりました。センター南と北、そこにみなぎたくなる、という意味から名付けられ、実行委員会

が始めたマルシェは、ニュータウンのシンボルでもある歩道を賑わいの場とする新たな取り組みです。八月からは博物館も協力して、雨でも傘を差さずに歩けるコロネードを会場に加え、マルシェはシンボルロードからコロネードへし字に広がりました。

独特なデザインの博物館を、敷居が高いと考える方もいるようです。このマルシェなどを通じて、ぜひ気軽に親しんでいただければと思います。

（文 刈田均）



コロネード

史跡と博物館のコラボ

—大塚・歳勝土遺跡と
横浜市歴史博物館—

館長 佐藤 信



定・保存されるわけです。高校の日本史教科書にも、かつて大塚遺跡の写真が載っていました。

大塚・歳勝土遺跡は、その後史跡整備され、竪穴建物や方形周溝墓として環濠の一部が復元されて、弥生時代のムラの姿が再現されています。この大塚・歳勝土遺跡公園は、立地ともども隣接する横浜市歴史博物館と一体としてとらえられます。昭和六十一年一月に遺跡が国史跡に指定されて、すぐの三月には、横浜市歴史博物館の基本計画が策定されています。また歴博の開館は平成七年一月で、史跡整備された大塚・歳勝土遺跡公園の開園は翌八年三月であるのも、両者の深いつながりを示しています。

こうした史跡公園と博物館のコラボは、各地の博物館でもしばしばみられ、両者が相まって大変効果的に歴史の理解を進め深めている事例があります。もともと史跡のガイダンスとして博物館・資料館が設けられる場合や、地域の歴史全般を展示する博物館が隣接する史跡と連携している場合もあります。当館の令和三年の企画展「縄文ムラの原風景」でご覧いただいた岩手県一戸町の世界文化遺産でもある縄文時代



横浜の港北ニュータウンの大規模な開発にあたっては、事前に多くの遺跡の発掘調査が行われ、各時代にわたる多大な調査成果が得られました。中でも特筆されるのは大塚・歳勝土遺跡で、弥生時代の環濠集落と共同墓地がセットで残っており、その姿が明らかになったことでした。

私も大学生のころに、小人数ゼミの考古学の甘粕健先生のご指導のもと、友人の早乙女雅博氏たちとともに、港北ニュータウンの発掘に参加しました。とくに古墳かもしれないと期待した大塚遺跡の中央にあったマウンドを調査したことは、鮮やかに覚えていています。遺跡名の大塚は、このマウンドに依るといいます。結果は中世の塚であり、古墳ではありませんでした。でもこの時の発掘経験からはじまって、私の日本史への関心は近代から古代にさかのぼり、今日に至っています。

大塚・歳勝土遺跡は、弥生時代の環濠に囲まれた竪穴建物群からなる集落の大塚遺跡と、方形周溝墓群からなる墓域の歳勝土遺跡との全景が明らかになった遺跡として、一部をのぞいて保存され、一九八六年に国の史跡に指定されました。史跡は、文化庁の指定基準で「我が国の歴史の正しい



遺跡公園にも
ぜひお立ち寄りください！

理解のために欠くことができず、かつ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において、学術上価値あるもの」とされます。日本の歴史を正しく理解するのに不可欠な遺跡という評価から、国民的財産として史跡が指

の史跡御所野遺跡と御所野縄文博物館のコラボなどは、好事例といえましょう。博物館の館内における文化財の実物展示とともに、整備されたオープンな史跡公園での歴史理解が一体となって、より良い学習成果を挙げることができると思います。

大塚・歳勝土遺跡公園の公開・活用は、横浜市歴史博物館の事業と切り離せません。今日でも、市民の方々による主体的な活動と博物館事業の連携・協力により、遺跡公園ガイドボランティアの皆様や、遺跡公園を場とした横浜縄文土器づくりの会、そして竪穴建物の茅葺を守る活動の皆様など、多くの方々との協働が展開しています。

博物館の運営・予算に自主的な努力が求められ、地域・観光の拠点としての活動が重視されるなど、これからの博物館がめざすべき展開を考えると、市民の方々と地域の諸団体との連携・協力による活動が、とても大切になってきています。横浜市歴史博物館では、大塚・歳勝土遺跡公園とのコラボをふくめて、これからもこうした市民・地域の皆様との協働を大事に進めていきたいと願っております。様々な形でのご理解とご協力をお願い致します。



詳しい商品情報はこちら

博物館オリジナル工作キット 「れきし工房」シリーズ



まゆ玉単品

まゆ細工キット内容



現在、月に一日程度、午前一回、午後一回勾玉キットのワークショップを開催しています。申込が必要ですので詳細はホームページをご確認ください。今後、勾玉以外のキットでのワークショップも開催するかも？かもしれません。



ペーパークラフト（筒形土偶 はらでぐち君）

歴史を学びながらモノづくりができる当館オリジナル工作キット「れきし工房」シリーズ。勾玉キット五種、あじろ編みキット三種、まゆ細工キット、ペーパークラフトの四力テグリー十種類あります。

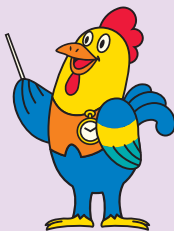
それぞれ詳しい取扱説明書が付いていて、自宅で作ることができます。カラフルなパッケージの「れきし工房」コーナーはミュージアムショップで一目を引きます。また、オンラインショップでも購入可能です。



ミュージアムショップ「れきし工房」コーナー

●れきし工房キットシリーズ（価格は全て税込）

- ・勾玉キット（青田石） 500円
- ・勾玉キット（かつ石白） 400円
- ・勾玉キット（かつ石ピンク） 450円
- ・勾玉キット（デラックス） 1,300円
- ・ジャンボ勾玉キット 1,600円
- ・あじろ編み（小物入れ） 400円
- ・あじろ編み（ポシェット） 500円
- ・あじろ編み（トートバッグ） 1,900円
- ・まゆ細工キット 500円
- ※まゆ玉1個30円で各色別売り有（ショップ店頭のみ販売）。
- ・ペーパークラフト（筒形土偶 はらでぐち君） 800円



どうがをみて 動画を見て 調べよう！

昔の道具とくらし を公開しました！

令和五年一月、横浜市歴史博物館では、昔の道具とくらしを学ぶ冬季の小学校三年生の社会科の学習に合わせた動画十九本を公開しました。

市立の小学校三年生は約三万人で、博物館でも冬季には、この単元を学習する三年生が多数来館していました。この数年は長引く新型コロナウイルスの影響もあり、博物館では展示室で間近に道具を見ることができ、体験学習室で直接、道具に手を触れることができない状況が続いてきました。そのいっぽうで、子どもたちにはタブレット端末が配布され、学校や家庭で、手軽にウェブコンテンツにアクセスできるようになっています。

こうした状況をふまえ、博物館として、昔の道具の学習をおこなう単元で活用してもらえようという動画の制作を進めることにしました。また、せっかく動画を作るのであれば、単なる昔の道具の紹介ではなく「実際に使っている場面」を見て欲しいと思い、都筑民家園の協力をいただき大々的にロケをおこないました。

動画は、昔の道具が使われた時代の生活を紹介する「くらし紹介編」と、ひとつひとつの道具を取り上げる「道具紹介編」に分かれています。生活の中から消えてしまった古い道具が実際に使われる映像や、実際に道具を使用したことがある展示解説ボランティアの皆さんのコメントも収録しました。「名前は知っていたけど、実は使い方をよく知らなかった」という道具もあると思いますので、この機会にぜひ使い方を知っていただけると嬉しいです。

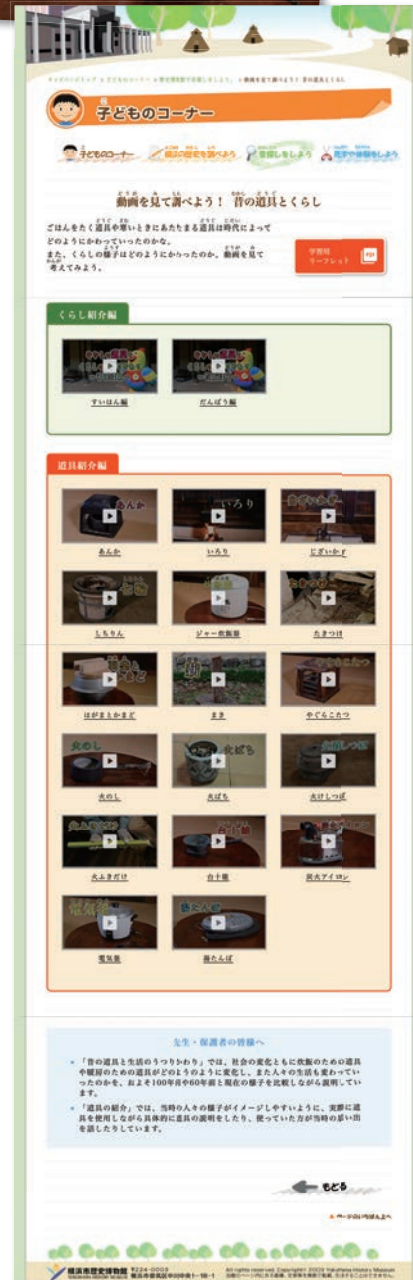


動画にご出演いただいた昔の道具の先生、浅見さん

動画一覧は下のQRコードからご覧ください。



今回は、暖房の道具、炊飯の道具を中心に紹介しましたが、次年度以降も動画を追加予定ですので、ぜひご期待下さい。（文 羽毛田智幸）



INFORMATION

展覧会

●企画展「浮世の華 描かれた港崎」

令和5年3月18日(土)～5月7日(日)

会期中展示替えがあります。前期:3月18日(土)～4月9日(日)、後期:4月11日(火)～5月7日(日)

●企画展「君も今日から考古学者!ー横浜発掘物語 2023ー」

令和5年5月20日(土)～6月25日(日)

●特別展「生誕百年 中田喜直展」

令和5年7月15日(土)～10月1日(日)

イベント

●ラストサタデープログラム:月の最終土曜日に開催するイベントです

バックヤードツアー [事前申し込み制]

普段は見られない博物館の裏側を見学します。ホンモノの資料に出会えるかも?!

※隔月開催、申し込み方法等詳細はホームページでお知らせします。

●おもしろいぞ!紙芝居

平成27年に横浜市から有形民俗文化財に指定された街頭紙芝居の複製を中心に実演します。

●濱ともデー

毎月最終水曜日、濱ともカードをお持ちの方は無料でご観覧いただけます。

展示関連イベントやワークショップ等の開催については、当館ホームページ、twitterにて随時お知らせしていきます!



おもしろいぞ!紙芝居(イメージ)

休館のお知らせ

令和5年10月2日(月)から令和6年2月2日(金)(予定)まで、機械設備更新工事のため休館します。

大塚・歳勝土遺跡公園は通常通りご利用いただけます。

※大塚遺跡(復元住居等)は月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始を除き、9:00～17:00開園します。

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

9:00～17:00(券売は16:30まで)

大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

そのほか展示替えなどのため、臨時休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生 横浜市内在住65歳以上	100円	80円

■特別展・企画展の観覧料は別に定めます。

■毎週土曜日、小・中・高校生は無料です。

■横浜市内在住の65歳以上の方は「濱ともカード」など証明できるものをご提示ください。

■「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」 「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳または、スマートフォンアプリ「ミライロID」の手帳画面をご提示ください。

■補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)とご一緒に入館できます。

会期・開催時間等の予定を変更する場合があります。最新情報は出かけ前に、当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

●交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分

駐車場あり(30分100円)



横浜市歴史博物館

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1

Tel.045-912-7777(代表) Fax.045-912-7781

<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

twitter @yokorekihaku

横浜市歴史博物館ニュースNo.54 令和5年3月31日発行

編集・発行 横浜市歴史博物館

デザイン 株式会社フィールド・ノート、柳原梢子(やなぎ堂)